

山口市文学碑巡り No8 (嘉村礒多その2)

嘉村礒多の生家**帰郷庵**から仁保川を 1 km程下った所に礒多の通った**大富小学校**が、廃校となった後も地域の交流の場として保存・解放されています。小さな校庭の一角に礒多の碑が建ち「私は都会で死にたくない 異郷の土にこの骨を埋めてはならない」と作品の一節が刻まれています。大富小学校からさらに仁保川下流に進み**道の駅「仁保の郷」**の近くに彼の作品中に出て来る「**安藤医院**」があります。今も作品が書かれた当時と同じ場所で内科医院を営む“安藤先生”は**作品中の“安藤先生”のお孫さん**に当たり、我らが母校 **74 期生**で、ご息子と共に地域の医療に尽力されています。その**ご息子**もまた我らが母校の**後輩**。蛇足ですが山口に隠棲した小生のかかりつけ医として市内**平川地区**で内科医院を営む“**安藤先生**”は小生と同期の **76 期生**で、先述の仁保安藤医院の安藤先生の**実弟**です。仁保安藤医院の先にやはり作品中に出て来る**信行寺**があります。若き日に人生に煩悶していた礒多が宗教の門を敲いた寺で、この寺の境内裏手に明治 30 年 8 月 8 日に**隕石**が落ちたことを記す記念碑が建っています。礒多の作品に出て来る所縁の場所の紹介をしてみました。

大富小学校に建つ石碑と大富小学校遺構



信教寺



境内に建つ隕石記念碑



(76 期 厚東 一生)

